



# 国際病理アカデミー

## 日本支部

A NEWS BULLETIN 1999 Number 1

Published quarterly  
by the Japanese Division  
of the International  
Academy of Pathology

### OFFICERS

#### PRESIDENT

S. Ushigome, M.D. (00)

Jikei University

#### PAST PRESIDENT

M. Suzuki, M.D. (00)

National Defense Medical College

#### PRESIDENT-ELECT

R. Y. Osamura, M.D. (00)

Tokai University

#### SECRETARY-TREASURER

O. Matsubara, M.D. (00)

National Defense Medical College

#### COUNCILLORS

M. Shamoto, M.D. (99)

Fujita Health University

S. Mori, M.D. (99)

University of Tokyo

T. Manabe, M.D. (00)

Kawasaki Medical School

M. Tsuneyoshi, M.D. (00)

Kyushu University

H. Yamabe, M.D. (01)

Kyoto University

Y. Kato, M.D. (01)

Cancer Institute

#### COMMITTEE CHAIR

Education

T. Morohoshi, M.D. (00)

Showa University

Finance

K. Maruyama, M.D. (98)

Formerly, Chiba Cancer Center



IAP NAGOYA 2000

XXIII International Congress of the  
International Academy of Pathology  
and 14th World Congress of Academic  
and Environmental Pathology  
Nagoya, Japan, October 15-20, 2000  
Congress Office: Japan Convention Service  
Tel. +81-3-3508-1214 Fax: +81-3-3508-0820

第88回USCAP Meetingがサンフランシスコにて開催、  
そこでExecutive Committee Meetingも開催される  
—88th Meeting of US-CAPに参加して—

会長 牛込 新一郎

毎年3月に開催されるUnited States-Canadian Academy of Pathology (USCAP)の学術会議は今回はサンフランシスコヒルトンにおいて開催された。IAPの最大の米国、カナダ支部に相当するものであるが、支部とは呼ばずこのように呼称されている。年々参加者数が増加し、今回3000名を超えた。会員数も7,000名に達する勢いであるが、北米、カナダにとどまらず、ヨーロッパ、アジアなど世界各国からも会員数が増加し、規模、学術内容など人体病理の卒後教育、研究に関してはトップレベルにあるとされている。演題の採択率は50%とされているが、本邦からの会員数も参加者も徐々ながら増加しているように思われる。

本学会の前日には多くのcompanion meetingも開催されているのも特色の一つで、世界各国とりわけヨーロッパからも各領域の著名な方の参加があるので、学問的交流と人との交流とに絶好の機会となっているようと思われる。

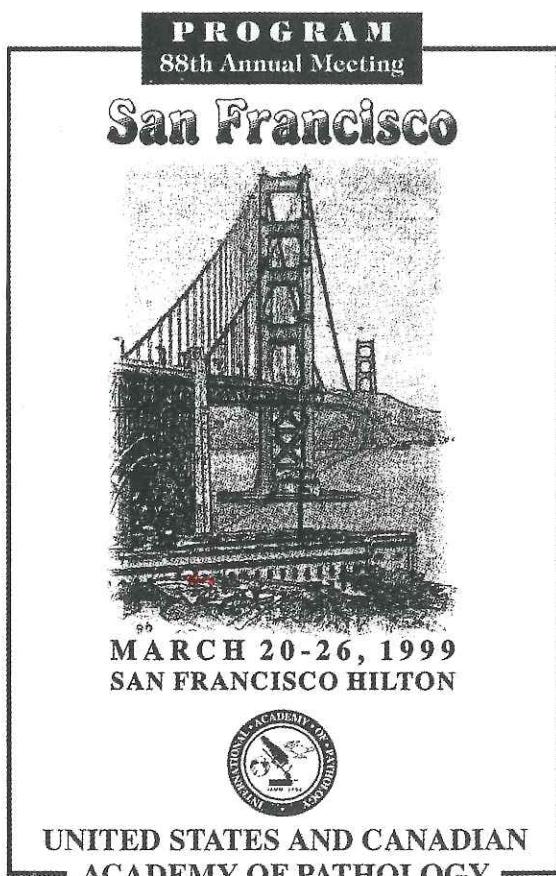
筆者の今回の参加目的は、(1)この時に開催されるIAPのExecutive Committee MeetingにアジアからのVice-Presidentの一人として責をはたすことと昨年度の活動を報告することに加えて、今回は(2)IAP Nagoya 2000の学術プログラムの進捗状況を町並陸生会長と森 茂郎プログラム委員長に代って報告をすること、(3)IAP Nagoya 2000の宣伝、(4)出来る限り各セッションに参加して、有用な情報をえて、森先生にそれを流すこと、(5)夜のセッションのパネリストとしての発表であった。(1)と(2)に関しては長村義之先生(日本支部・次期会長)と松原修先生(同・常任幹事)に同席していただき、日本支部の昨年度の活動は松原常任幹事が用意されたものを要約して報告した。



(3) の宣伝に関してはまず、USCAP 事務局の Jim Crimmins 氏に相談したら、名古屋市の大きい目立つポスターと IAP Nagoya 2000 のポスターを誰もが気付く目立つ掲示板に貼ってもらうことができた。同時に彼に今回の会長である E. Jaffe 先生 (NCI/NIH) を紹介していただき、お願いしたら Business Meeting の際に宣伝する機会を頂くことができた。Jim は何でも相談できる間柄になってしまっており、我々に本当に好意的で、名古屋の際にも夫妻で参加し、Executive Committee Meeting などの世話をしてくれることになっている。

今回特に印象的であったのは、Jack P.Strong教授(IAP本部のTreasurer)、Seven G.Silverberg教授夫妻、Robin Cooke教授(IAP本部のブレティンInternational Pathologyの編集長)、Sharon Weiss教授らに毎晩夕食に招かれNagoya 2000の為に色々と配慮して下さったことは誠に有難く、何としても日本での国際会議を成功させねばと改めて思った次第である。これらは無論筆者一人だけの招待ではなく、各々の友人の方々が参加されるので、人の輪が拡がることになり、大変楽しいものとなつた。Silverberg夫人のきよえ様もNagoya 2000の同伴者プログラム委員となってお役に立ちたいといって下さったのは有り難かった。

US-CAPのSecretaryとして長年敏腕を振るい、またIAPの次期会長となったStephen Vogel教授には日本は立派に国際会議を成功させるだろうと期待しているといわれ、この気持ちを町並陸生先生、森茂郎先生らにも伝えねばと思った次第であります。USCAPではVogel教授の長年の貢献を賛えて来年からThe Stephen Vogel Awardを新設することになった。この物静かな先生に立ち上がって聴衆も惜しみない拍手をおくったのには感動した。



2006年IAP国際会議は米国にほぼ決まったも同然であるが、各国支部（病理学的研究成果と人材など）をもつと活かしていくポリシー、ひいては世界の病理学を一層隆盛させるIAPの本来の目的も含めて彼の影響が必ずやるものと筆者は期待している。

そのほか、今回は尊敬するDavid Dahlin教授(Mayo Clinic)がDistinguished Pathologist Awardを、William A. Gardner教授がThe Mostofi Distinguished Service Awardを授与されたことは親しい友人として誠に喜ばしいことであった。また、Richard Kempson教授(Stanford)が42回 Maude Abbott Lectureを担当し、Surgical Pathologyに関する講義は聴衆に大変感銘をあたえた。

今回、ニースでの会長Francis Jaubert先生とプログラム委員長J-M. Coindre先生とも御会いでき、学会成功の秘訣を聞く事が出来た。USCAPの総会内容と人材を活用されたよし、また何でもフランスと片寄らない様配慮したことであった。

IAP Nagoya 2000も何とか国際感覚でのプログラムとなれば良いと念願しています。IAP日本支部の会員の皆様のみでなく、日本病理学会の会員の方々とも本邦病理医の総力を結集して、成功させねばならないと強く願っております。この機会を借りまして、成功に向けて日本からの登録と研究発表も多くなるように、何卒皆様および同僚の方々の御協力、御支援をお願いする次第であります。

## 2000年Nagoya Congressのプログラム概要

プログラム委員長 森 茂郎

IAP Nagoya 2000プログラム委員会を中心に概要が徐々に固まっている。

会期は2000年10月15-20日。

10月15日 Opening ceremony

このコングレスについて *Emphasis of the Congress*として以下の 5 項目があげられている。

- 1 ) Contribution of Pathology in the medicine and environment of the 21st century.
  - 2 ) New knowledge and technologies in Pathology
  - 3 ) Information science in Pathology
  - 4 ) Educations of Pathology
  - 5 ) Emerging and re-emerging infectious diseases

具体的なプログラムの内容では、  
Keynote Lecture:

岸本忠三（大阪大学）

#### **Update (Special, or Guest) Lectures:**

RS Cotran (Harvard, USA, kidney, Robbinの教科書)

G Gabbiani (Swiss. myofibroblast)

R Ross (Seattle, USA, atherosclerosis)

David Mason (UK, CD classification)

菅野晴夫（癌研）

吉野晴人（専修）  
庄橋節雄（国立がんセンター）

の6人が候補と決まった。ただ、R Ross先生は3月18日にお亡くなりになった（脾腫瘍術後10日目）ことが分かりました。



細則、内規)があり、それにのっとって行われる。

Nominating Committee(指名委員会)の構成は、3人のmost immediate past-Presidents(前、前々、前々々会長)と選挙で選ばれた指名委員2人の合計5人である。委員長はpast-Presidentが就任する。

まず、会員に理事の候補者を挙げてもらい、Nominating Committee(指名委員会)はそれをリストアップし、指名候補者名簿(氏名、勤務先、肩書き、Academyへの貢献などを記載)を作成する。改選理事の数に2名分多くの候補者を作る。このリストをExecutive Committeeがreviewした後で、会員による郵送の選挙が行われる。

この結果はAnnual Meetingの期間中のBusiness Meetingで報告される。

Nominating Committee(指名委員会)は理事会に対してPresident-ElectとVice-Presidentの推薦も行う。

IAP日本支部ではどうするか?現行では、2段階投票であることは同じであるが、指名候補者名簿作成は名前だけであり、また上位得票者をただ並べているだけである。USCAPのものでは、会員からの推薦をもとに、理事に適格であるか否かについてある程度の吟味が働き、Nominating Committee(指名委員会)が責任をもって指名候補者名簿を作成することとなる。現行のものは単なる知名度、人気取り投票とは変えて、アカデミーの目的、運営、将来へのしっかりした考えの候補者を選ぶことができるのではないか。

USCAPのものを真似した時、ポジティブな面は(1)指名候補者名簿がinformativeである、(2)推薦母体の責任がはっきりする、(3)理事会の継続性、(4)日本病理学会との関係などへの配慮ができる、など。マイナス面は(1)煩雑であること、(2)past-Presidentsの意見が強く反映される(保守的となる?)、(3)直接民主主義的でない、など。審議した。

新しく決まったIAP日本支部理事選挙の実施細則は後述する。

#### 5. 会員名簿1999/2000年版の発行について:

2~3月にかけて会員から資料をFAXにて返事してもらい印刷にまわせる状況にあるのだが、サンフランシスコでの第88回USCAP Annual Meetingで行われたIAP Executive Committee Meetingで国際版を作りたいとの考えが話された。つまりIAP本部でInternational Membership Directoryを2000年2月までに作成することを目指している。国内版で得た資料以上のことと、国際版に要求されている。例えば(1)病理学の専門領域を二つ、(2)最大3つまでのDegreesとそれを得た大学学部名を記載することが求められている。それで問題なのは、(1)現在の資料で国内版を作成してしまう。また新たに資料を集めるか?(2)国際版にすぐ使えるものを国内版として発行するか?について議論した結果、大変でも国際版に使えるものを作つておこうと決定した。従つて、事務局では今一度会員に連絡をとり追加情報を得ることとし、国内での発行、国際版にも備えることとなつた。

6. 夏に「Surgical Pathology Update」の開催を更に前向きに検討することとなつた。

#### 報告事項:

1. 第2回JKAHK合同集会と第6回日韓合同スライドセミナーについて: 正式名はThe 2nd Cojoint Meeting of the Japanese, Korean, Australasian and Hong Kong Divisions of the IAP and Pathology Associations and 6th Korean-Japanese Joint Slide Conferenceで、Moon Ho Yang, M.D.がPresident of the Congressとなって、期間は平成11年10月14日(木曜日)から16日(土曜日)、Swiss Grand Hotel, Seoul, Koreaにおいて行われる。特別企画のものに対して日本側のSpeakerを別掲の先生方にお願いすることとなつた。なお、参加者を募ることに対しては、学会案内を(株)ワールドミーティングへお願いした。会員全員へIAP日本支部からの手紙とプログラムの要約、演題申込み用紙を送つてもらった。韓国側は日本からの多数の参加を望んでいることです。

#### 2. 第88回USCAP Annual MeetingとIAP

Executive Committee Meeting: 平成11年3月20日(日曜日)に会場のSF Hilton HotelでPresidentであるDr. A Kadaarは骨折のため欠席、役員、各Vice-Presidentの出席のもと開催

された。日本からは牛込、長村、松原が出席した。牛込から日本支部の年次報告、名古屋コンgres2000のプログラムの概要が説明された。

3. 2000年Nagoya Congressに向けての準備のこと:多くの国から、たくさんの参加者がのぞまれる様な素晴らしいプログラムを計画中であることが森プログラム委員長から簡単に説明された。

4. 次回の理事会の開催日は平成11年11月18日。

### 1999年度教育シンポジウムについて

「病理学領域におけるコンピューターとインターネットの利用」一日常病理診断業務の支援から学会発表・論文作成に有用なデータの活用まで

モダレーター: 岩崎 宏(福岡大学医学部第一病理)

1999年11月20日、9~12時(3時間)

1. 序論: 岩崎 宏(福岡大学医学部第一病理)

2. 病理におけるコンピュータの応用  
—可能性と問題点—

向井 清(東京医科大学第一病理)

3. パーソナルコンピューターによる  
実用的な病理業務システム

(1) Windows 98 桐マクロプログラムを用いた  
病理業務支援システム

林 徳真吉(長崎大学病院病理部)

(2) MacintoshとファイルメーカーProを用いた  
病理業務支援システム

羽賀 博典(天理よろず相談所病院病理部)

4. LANをベースとした病理業務システムと  
画像データベース

(1) 病理診断業務LANシステムにおける画像  
ファイリング

真崎 武(京都府立医科大学病院病理部)

(2) 病理業務コンピュータシステムと病理医協会の活動

望月 真(東京医科大学八王子医療センター、  
病理医協会)

5. インターネットを利用した病理医の情報交換  
ネットワーク

小島 英明(東京都神経研・臨床病理)

6. 全体討論 11:40-12:00

### 1999年度スライドセミナーについて

1999年11月20日、13~17時

#### [新規コース]

1. 唾液腺腫瘍 長尾 孝一(帝京大市原病院)

2. 卵巣腫瘍 手島 伸一(同愛記念病院検査科)

3. 内分泌腫瘍 長村 義之(東海大病理)

4. 肺生検(TBLB)の病理 松原 修(防衛医大病理)

#### [2年次コース]

1. 下部消化管の病変 岩下 明徳(福岡大筑紫病院)

2. 皮膚の色素性病変 真鍋 俊明(川崎医大病理)

#### [3年次コース]

1. 悪性リンパ腫 菊池 昌弘(福岡大病理1)

中村 栄男(愛知がんセンター)

2. 肝の結節性病変 神代 正道(久留米大病理1)

スライドセミナー申込用紙は次回の会報発送時に同封します。なお、会場については埼玉県所沢市の防衛医科大学校の線で調整が進められている。

∞ ∞

## IAP日本支部理事選挙の実施細則 (平成11年4月6日第2回理事会にて)

理事選挙の実施にあたって下記の細則に従って行う。会員に理事の候補者を挙げてもらい、指名委員会はそれをリストアップし、場合によっては候補者を追加し、アカデミーへの過去と将来の貢献、病理学の研鑽、社会的地理的背景など多角的に検討し、指名候補者を決定する。その上、指名候補者名簿（氏名、勤務先、職、アカデミーへの貢献などを記載）を作成する。指名候補者数は改選理事の数に2名分多くの候補者とする。

この指名候補者名簿を役員・理事がチェックした後で、会員に送付し、会員による郵送またはファックスによる投票による選挙を行う。

理事推薦委員会の構成は、2人の直近の前会長（あるいはそれに準ずる理事・役員経験者）と3人の直近の前理事・役員経験者の合計5人で構成し、委員長は前会長が就任する。事務局は常任幹事が行う。

任期について、2人の直近の前会長（あるいはそれに準ずる理事・役員経験者）は3年とし、3人の直近の前理事・役員経験者は1年とする。

投票結果は、理事会に報告し承認を得た後、総会において報告する。

## ▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲ 第2回JKAHK合同集会と第6回日韓合同 スライドセミナー

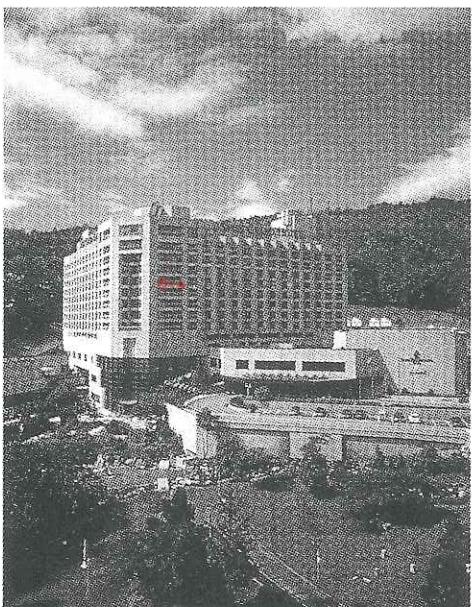
正式名はThe 2nd Cojoint Meeting of the Japanese, Korean, Australasian and Hong Kong Divisions of the IAP and Pathology Associations and 6th Korean-Japanese Joint Slide Conferenceといい、平成11年10月14日（木曜日）から16日（土曜日）の期間で、Swiss Grand Hotel, Seoul, Koreaで、President of the CongressはMoon Ho Yang, M.D.である。

演題抄録申込の締め切りは-----> 6月15日

学会登録申込の締め切りは-----> 8月15日

ホテル、旅行予約の締め切りも--> 8月15日

SWISSOTEL / SEOUL (SWISS GRAND HOTEL)



参加者を募ることに対しては、学会案内を（株）ワールドミーティングへお願いした。会員全員へIAP日本支部からの手紙とプログラムの要約、演題申込み用紙を送ってもらった。

特別企画のものに対して日本側のSpeakerは、次の先生方にお願いすることとなった。

- 1) Symposium I: Infectious diseaseへの日本代表  
堤 寛（東海大）

2) Symposium II: Helicobacter pylori related gastritisへの日本代表：その中の個別のテーマ：Helicobacter pylori-associated gastritis and gastric carcinogenesis

加藤 洋（癌研、理事）

牛込会長からDr. Yang コングレス会長に日本側からは MALToma の関連を吉野 正（岡大）、Helicobacter pylori の証明について勝山 努（信州大）、共同司会に赤木忠厚（岡大）を提案していたが、韓国側からは Helicobacter pylori-associated gastritis and gastric carcinogenesis についての speaker を求めてきた。協議の結果、加藤 洋（癌研、理事）にお願いし、もう一度、当初の3人のことについて韓国側と交渉することとなった。

- 3) Slide seminar on ther CNS tumorsへの日本代表

中里洋一（群馬大）

田中順一（慈恵医大）

- 4) Slide seminar on ther Breast tumorsへの日本代表

長村義之（東海大、理事）

嵩 真佐子（国立名古屋病院）

同時に開催される The 6th Korean-Japanese Joint Slide Conference では2時間で、8例（1例15分として）を検討しようと先方から連絡がありました。日本側の症例提示者 submitter、討議者 discusser を決める様と思っています。希望者あるいはご意見のある方はどうぞご連絡下さい。特に領域での縛りなどは決めないつもりです。 discusser は症例をみて決めます。

## Up Coming Meetings-----

# Gastrointestinal, liver and pancreatic pathology. April 26-29, 1999, Harvard Medical School, <http://www.med.harvard.edu/conted/>

# 40th Annual Postgraduate Institute for Pathologists in Clinical Cytopathology. April 26 - May 7, 1999, John Hopkins Hospital, <http://www.med.jhu.edu/cme>

# 9th Annual Anatomic Pathology, May 2-8, 1999, AFIP, <http://www.afip.org>

# Urologic surgical pathology for the practicing pathologist, May 7-9, 1999, Harvard Medical School, <http://www.med.harvard.edu/conted/>

# Critical issues in: Laboratory medicine and surgical pathology. May 5-8, 1999, John Hopkins University, <http://www.med.jhu.edu/cme>

# Dermatopathology workshop. May 14-15, 1999, AFIP, <http://www.afip.org>

# 2nd Annual current issues in anatomic pathology-1999. May 27-29, 1999, UCSF and Stanford University, Phone: 415-476-5808

# Diagnosis of melanocytic lesions: common problems for the practicing pathologist. May 28, 1999, Institut Gustave-Roussy, Fax: 33-1-42115263

# Tumor pathology of the head and neck. June 6, 1999, EL Barnes, Jr., M.D., Fax: 909-478-4188

# Advances in Cytology. June 14-18, 1999, Harvard Medical School Department of Continuing Education, <http://www.med.harvard.edu/conted/>

# Molecular and diagnostic pathology update. June 16-18, 1999, Liverpool, Royal College of Pathologist, <http://www.liv.ac.uk/patholgy/>

**Jack P. Strong**先生と会席料理

IAP本部のTreasurerをされているJack P. Strong先生が来日され、在京の日本支部関係者が先生を囲んで3月4日に夕食を共にしました。親交の深い東邦大学の石井寿晴教授がアレンジして下さり、文京区目白台の藏という料亭で、集まったのはStrong先生のお友達のエマさん、牛込会長ご夫妻、石川栄世元会長、桜井 勇元理事（日大）、丸山会計監事、石井先生と松原で、6時半から9時頃まで会席料理を楽しみました。Strong先生はニューオリンズで週3回も日本語を勉強されていて、今回の集まりでは英語より日本語での会話が多いという奇妙な国際交流がありました。日本支部の会報に先生の受賞のニュースを載せた記事を見せたら大変喜ばれました。11月には桜井先生達の招待でまた来日されるそうです。

October 25-30, 1999, Peru,  
<http://www.colmedi.org.pe/actividades/slap/index.html>  
# Gynecologic pathology: approaches to common problems  
with emphasis on new entities and techniques. October  
29-30, 1999, John - Hopkins University,  
<http://www.med.jhu.edu/cme>  
# Practical thoracic pathology: a microscopic study course.  
November 13-14, 1999, MN Koss and WD Travis, AFIP and  
George Washington University, Fax: 202-782-5017  
# California seminars in pathology. December 1-4, 1999, SF,  
CA Society of Pathologists, <http://www.calpath.org>  
# Current issues in gynecologic pathology. December 9-11,  
1999, Amelia Island, FL, AFIP, <http://www.afip.org>  
# Diagnostic gynecologic pathology. January 15-17, 1999,  
San Diego, CA, RH Young, M.D., Fax: 617-432-1562  
# 1st Intercontinental Congress of Pathology. April 30-May  
6, 1999, Funchal-Madeira island, Portugal,  
<http://www.ipatimup.pt/events/madeira2000>  
# 6th International Symposium on Metal Ions in Biology and  
Medicine. May 7-10, 2000, San Juan, Puerto Rico, AFIP,  
<http://www.afip.org>



(料亭 蔵にて、後左から牛込、桜井、石井、松原、前右から丸山、石川、Strong、エマ、牛込夫人)

# 21th annual ASPEN conference on pediatric disease, pediatric gastroenterology and nutrition. July 25-30, 1999, Colorado, Society for Pediatric Pathology, Fax: 301-229-8338

# Diagnostic pathology '99, July 31-August 6, 1999,  
Minneapolis, USCAP, Fax: 706-733-8033

# 21th anual ASPEN conference on pediatric disease, problems, controversies and recent advances in pediatric pathology. August 1-6, 1999, Colorado, Society for Pediatric Pathology, Fax: 301-229-8338

# Pulmonary Pathology Society, Annual Meeting & Medical Symposium. August 25-27, 1999, VL Roggeli, M.D. Fax: 1-919-286-6818

# Dermatopathology: symposium on cutaneous lymphoma.  
September 8-11, 1999, Harvard Medical School,  
<http://www.med.harvard.edu/conted/>

# Surgical pathology update: head to toe. October 4-9, 1999,  
New York University, <http://www.scanet.com/nyuprgms>

# Diagnosis of Tumors of the Skin and Soft Tissue Tumors.  
October 18-21, 1999, Stanford University School of

Medicine, Call:+1-650-724-8761  
# XXII, avanza de la sociedad latinoamericana de patología

# Ultraphat X: The ultimate conference on diagnostic electron microscopy and immunohistochemistry. July 2-7, 2000, Florence, Italy, Society for Ultrastructural Pathology, <http://sup.ultrakohl.com/ultraphat10/ultrpt10.htm>

# XIth International Congress of Histochemistry and Cytochemistry, ICHC 2000. September 3-8, 2000, University of York, UK, [http://www.med.ic.ac.uk/external/ichc\\_2000/](http://www.med.ic.ac.uk/external/ichc_2000/)

国際版会員名簿発行へのご協力を-----

IAP日本支部の会員名簿国内版も、国際版なみのものをこの際作ってしまおうと考えます。同封の返信用ファックス用紙に事項をお書き下さり、事務局の方へ返信のほどお願ひします。前回資料と何か変更がありましたらそれも教えて下さい。

**あとがき**：今回は記事が一杯です。本部のブレティンもよく日本特集を組んでくれています。そうそう、年度会費まだ未納の会員の方は納入手続をして下さい

常任幹事：松原 修／事務局秘書：佐々木洋子  
〒359-8513 所沢市並木3-2防衛医科大学校病理学第2

P: 042-995-1507 / F: 042-996-5193

E-mail:matubara@ndmc.ac.jp

E-mail: matsumura@nisme.ac.jp